

タイトル：2022年度 教育セミナー（第18回）

日時：2022年9月15日（木）～18日（日）

ハイブリッド開催

「内戦後スリランカにおけるマイノリティとしてのムスリムコミュニティ―民族間・民族内関係に着目して」

浅井 登紀子（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

中東★イスラーム教育セミナーには今回初めて参加させていただきました。以前から本セミナーについては知っていたのですが、イスラームや中東を専門としているわけではない自分にとってはなんとなく敷居が高く参加を見送っていました。実際に参加してみると、学びが多く大変充実した4日間となりました。

本セミナーの魅力は、全国各地から中東・イスラームに関わる多様なディシプリンの研究者・受講生が集まる点です。中東・イスラームに関する研究といっても対象やそのアプローチは様々で、先生方や他の受講生の方々の発表を通して未知の分野に触れることは楽しく勉強になりました。こうした機会はなかなか他にはなく貴重な場であると感じます。特に、先生方の講義では研究のプロセスやこれまでのキャリアなど、通常のセミナーでは聞くことのできないようなお話を聞くことができ、大変興味深く参考になりました。こうしたお話を聞くことができるのも教育セミナーならではの醍醐味だと思います。

今回私がセミナーに参加しようと思ったのは、修士論文を提出して以降フィールドに行けないまま文献調査をしている中で研究に行き詰まりを感じており、普段とは違う場での研究発表や講義への参加を通して現状の打破を図りたいと考えたからでした。そうした状況で発表内容もうまく整理できていないままとなってしまいましたが、それにも拘らず、質疑応答では多くの質問やコメントをいただくことができました。対象地域もディシプリンも異なる立場からの様々な質問やコメントを通して、自分の研究を客観的に見ることができ、課題に気づくきっかけとなりました。特に、鳥山先生からは人類学の立場からご指摘をいただき、研究の原点に立ち返ることができました。受講生1人あたりに十分な発表と質疑応答の時間が設けられている点もよかったです。

4日間の先生方の講義や受講生の皆様による発表を通して、改めて研究することのおもしろさに気付くことができ、今後研究を続けていくうえでの大きな励みとなりました。私のように研究で悩んでいる人や、発表できるほど研究がまとまっておらず参加をためらっている人にもぜひ参加をお勧めしたいです。

今回はオンラインでの参加であったため、受講生の皆様や先生方との対面での交流ができなかったのは非常に残念でしたが、ハイブリッド開催であったため現地での参加が難しい状況でも参加が可能になったことは大変ありがたかったです。本セミナーの企画・開催に携わってくださった先生方、事務局の皆様にご改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。